

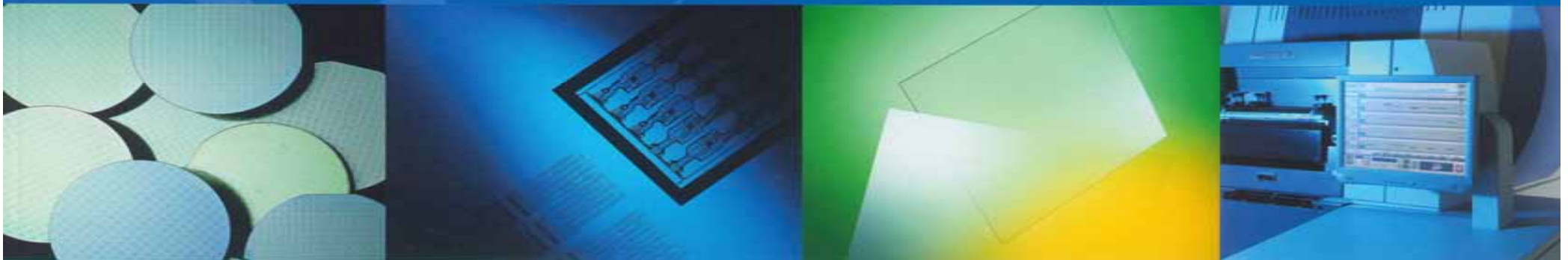
SCREEN

大日本スクリーン製造株式会社 2008年3月期 決算説明会

2008年5月13日

資料の取り扱い上の注意

本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。なお、本資料に記載しております億円単位の数字につきましては、億円未満切捨で処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。



2008年3月期決算説明会

代表取締役社長
最高執行責任者（COO） 橋本 正博

- ◆ 2008年3月期決算概要と事業別市場環境
- ◆ 連結中期3ヵ年経営計画「Vision2008」について
- ◆ 2009年3月期業績予想と企業価値向上に向けた取り組み

* SPEは半導体製造装置、FPDはFPD製造装置、その他電子はプリント配線板製造装置など、GAは画像情報処理機器をそれぞれ示す。

2008年3月期決算の概要

2008年3月期連結業績

(単位：億円)		上期	下期		通期	
		実績	前回予想 (2/12)	実績	前回予想 (2/12)	実績
売上高		1,452	1,277	1,345	2,730	2,798
	SPE	990	694	747	1,685	1,737
	FPD	120	204	206	325	326
	その他電子	39	50	40	90	79
	GA	288	314	340	603	629
	その他	14	12	11	27	25
営業利益		119	35	26	155	146
経常利益		92	0	16	93	75
当期純利益		54	4	9	50	45
1株当たり配当金(円)					10	10

2008年3月期決算の概要

売上高

2,798億円 前期比 7.1%減少

- (要因) FPD製造装置事業の売上高大幅減による

営業利益

146億円 前期比 52.1%減少

- (要因) FPD製造装置事業の売上高大幅減
半導体製造装置事業の利益率低下による

その他

- 期末配当金 1株当たり10円(予定)
- 自己株式の取得 総額約43億円

連結損益計算書

(単位：億円)

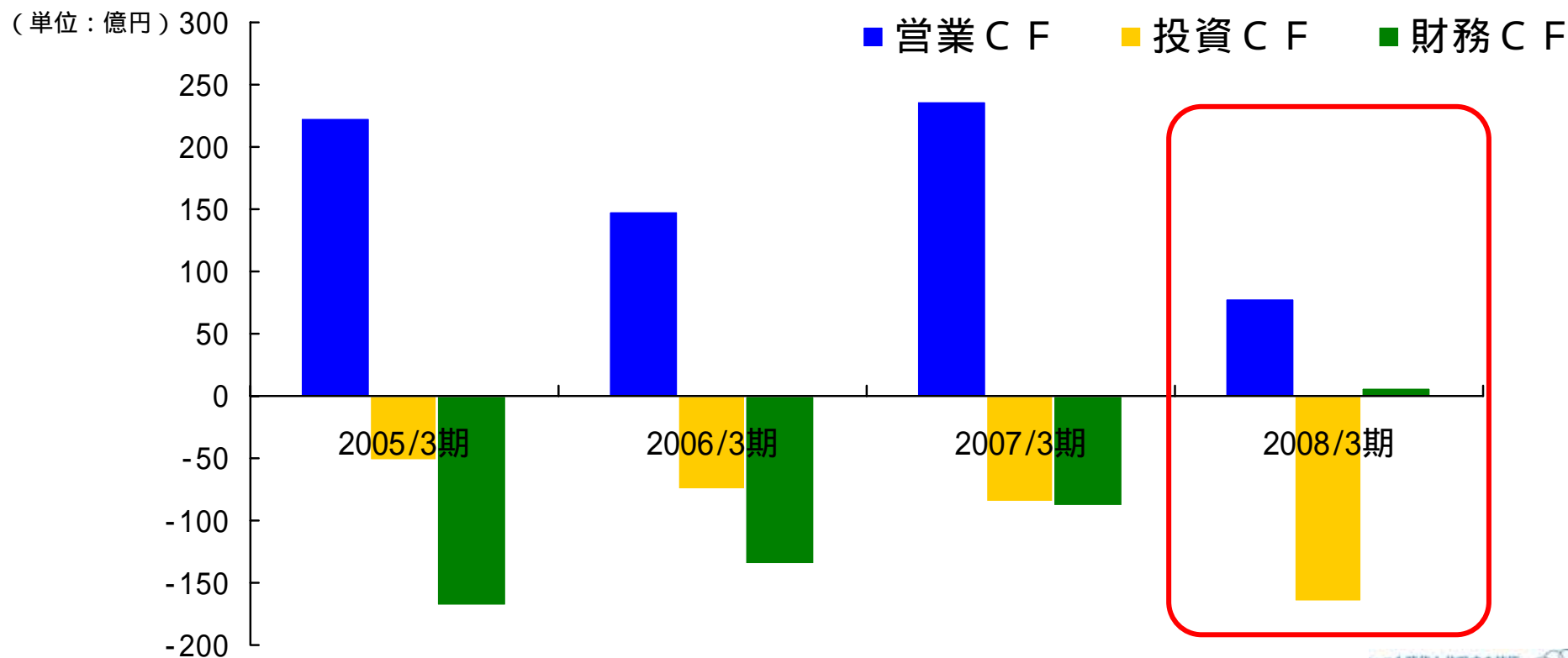
	2008/3期	2007/3期	増減率	主な増減要因
売上高	2,798	3,013	7.1%	← FPD製造装置の売上減少
売上総利益	715	901	20.6%	
粗利率	25.6%	29.9%	4.3ポイント	
販売費及び 一般管理費	569	596	4.5%	
営業利益	146	305	52.1%	
営業利益率	5.2%	10.1%	4.9ポイント	
営業外収益	27	24	12.2%	
営業外費用	98	59	65.0%	
経常利益	75	270	72.1%	← 持分法による投資損失の増加、 為替差損の発生による
特別利益	14	33	56.7%	
特別損失	0	2	74.1%	
税金等調整前 当期純利益	89	301	70.3%	
法人税等	29	129	77.0%	
法人税等調整額	12	13	-	
当期純利益	45	184	75.2%	

連結貸借対照表

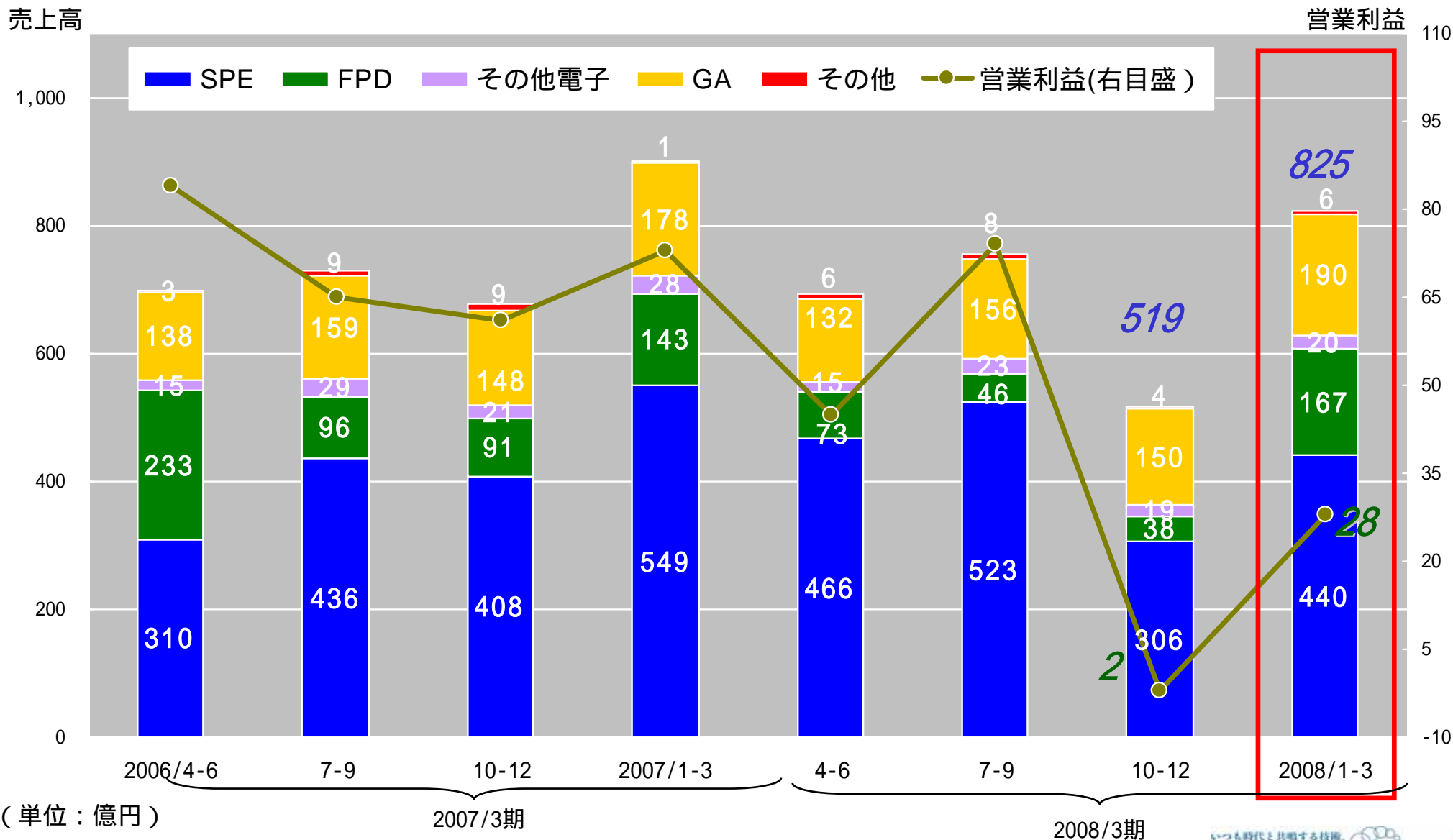
(単位：億円)	2008/3期	2007/3期	増減率	主な増減要因
(資産合計)	2,911	3,195	8.9%	半導体プロセス技術センターの完成に伴い有形固定資産が増加した一方、売上の減少に伴い受取手形・売掛金や棚卸資産が減少
流動資産	1,969	2,234	11.8%	
現金及び預金	262	344	-	
受取手形・売掛金	857	977	-	
棚卸資産	739	774	-	
固定資産	941	960	2.0%	
(負債合計)	1,682	1,857	9.4%	
流動負債	1,237	1,337	7.5%	
支払手形・買掛金	745	833	-	
固定負債	445	519	14.3%	
(純資産合計)	1,228	1,337	8.2%	
資本金	540	540	-	
資本剰余金	301	301	-	当期純利益による増加
利益剰余金	493	484	-	
自己株式	122	79	-	自己株式取得 約43億円を実施

連結キャッシュ・フロー

- ・ 営業CFは、減価償却費の増加や売上債権・棚卸資産の減少など収入項目が増加、しかし税金等調整前当期純利益の大幅な減少とともに、仕入債務の減少や前期の法人税等の支払などにより、157億円減少し79億円の収入
- ・ 投資CFは、半導体プロセス技術センターなどの主に有形固定資産の取得により、165億円の支出
- ・ 財務CFは、支出項目として配当金の支払、自己株式の取得、長期借入金の返済を計上した一方で、主に短期借入金による資金調達を行った結果、6億円の収入



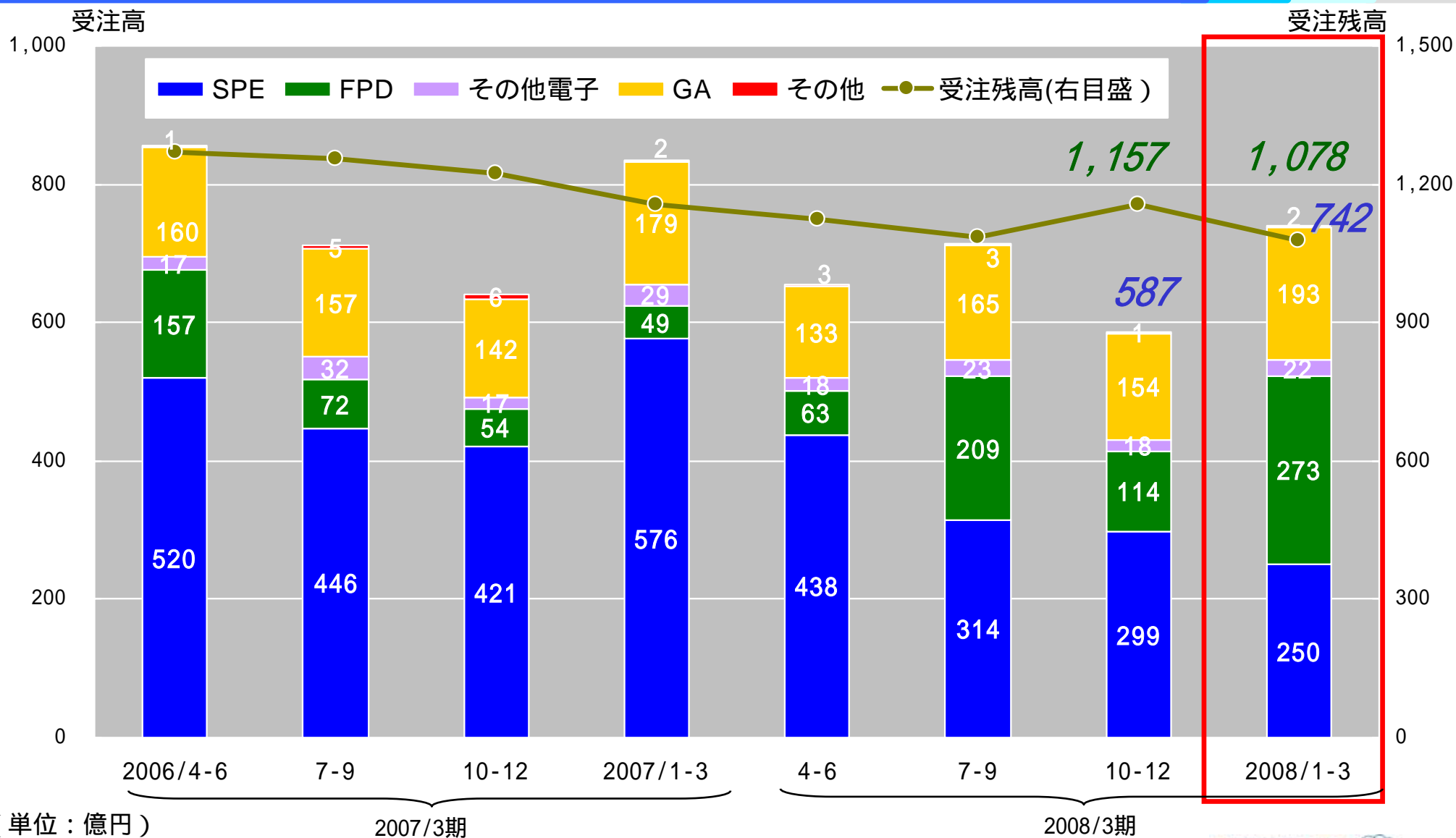
売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



(単位：億円)

9 棒グラフの青文字は、四半期売上高合計を示す。

受注高・受注残高 四半期推移 (連結)

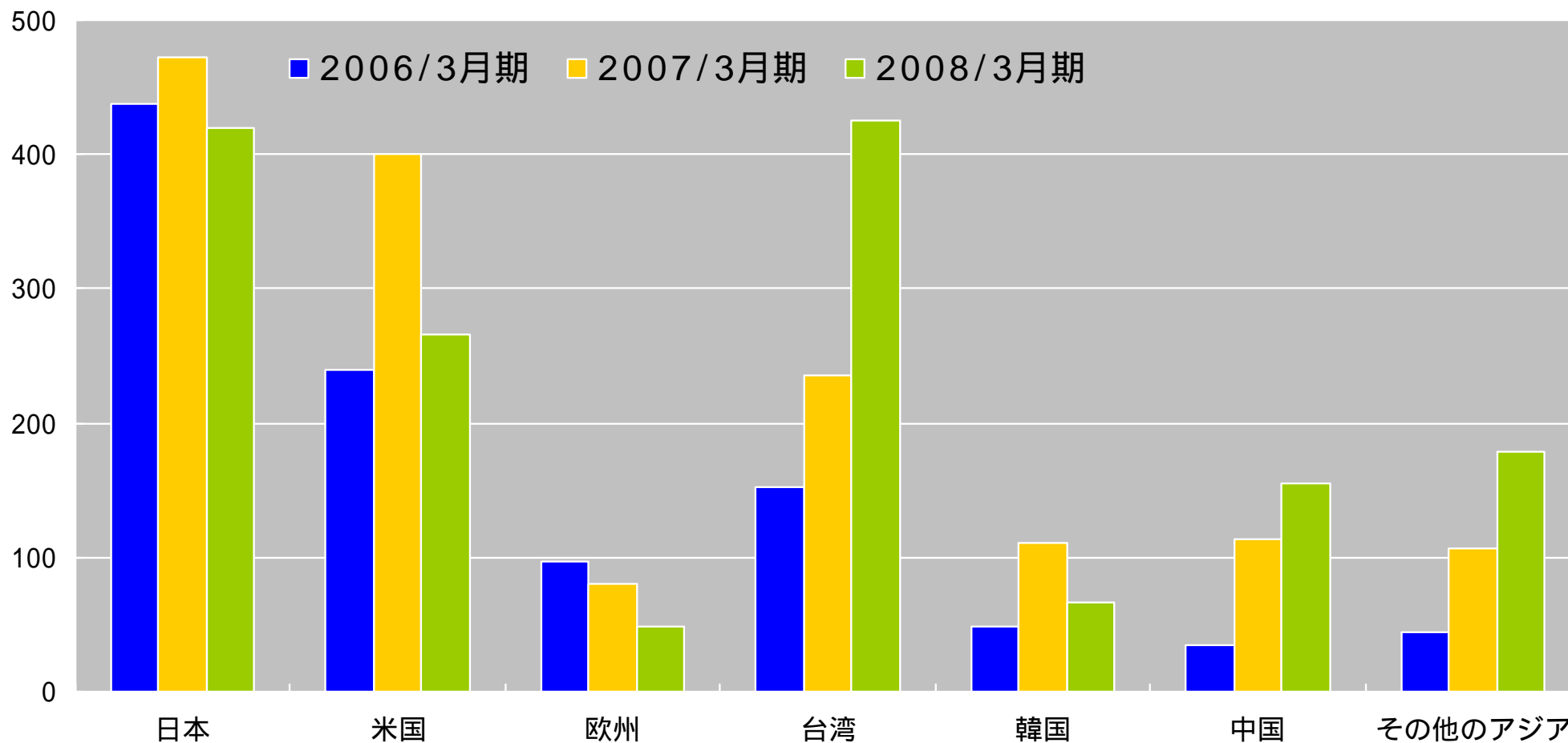


事業別市場環境

半導体製造装置 地域別売上高推移（単独）

台湾が大きく増加、中国、その他のアジアも増加
アジアシフトが鮮明

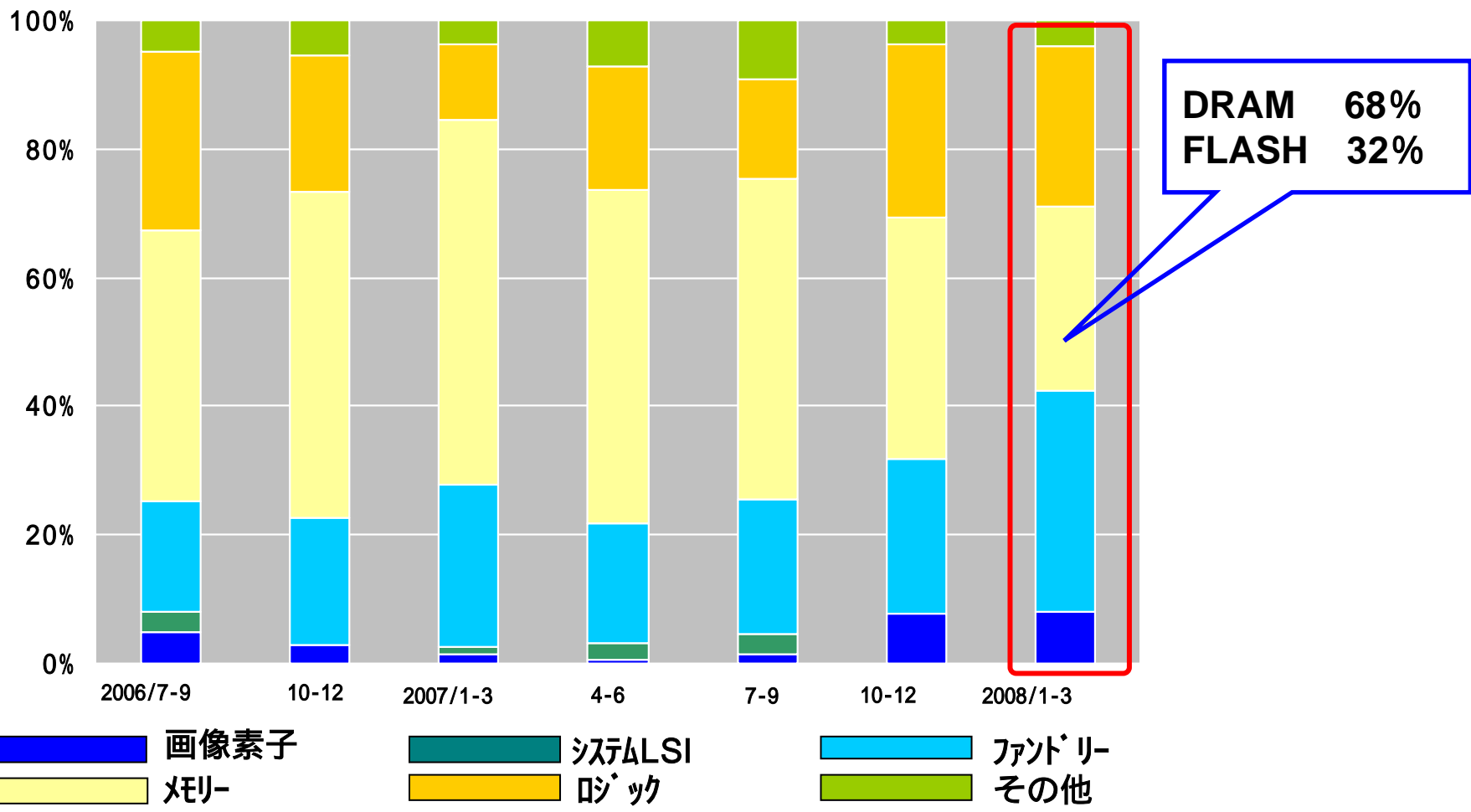
（単位：億円）



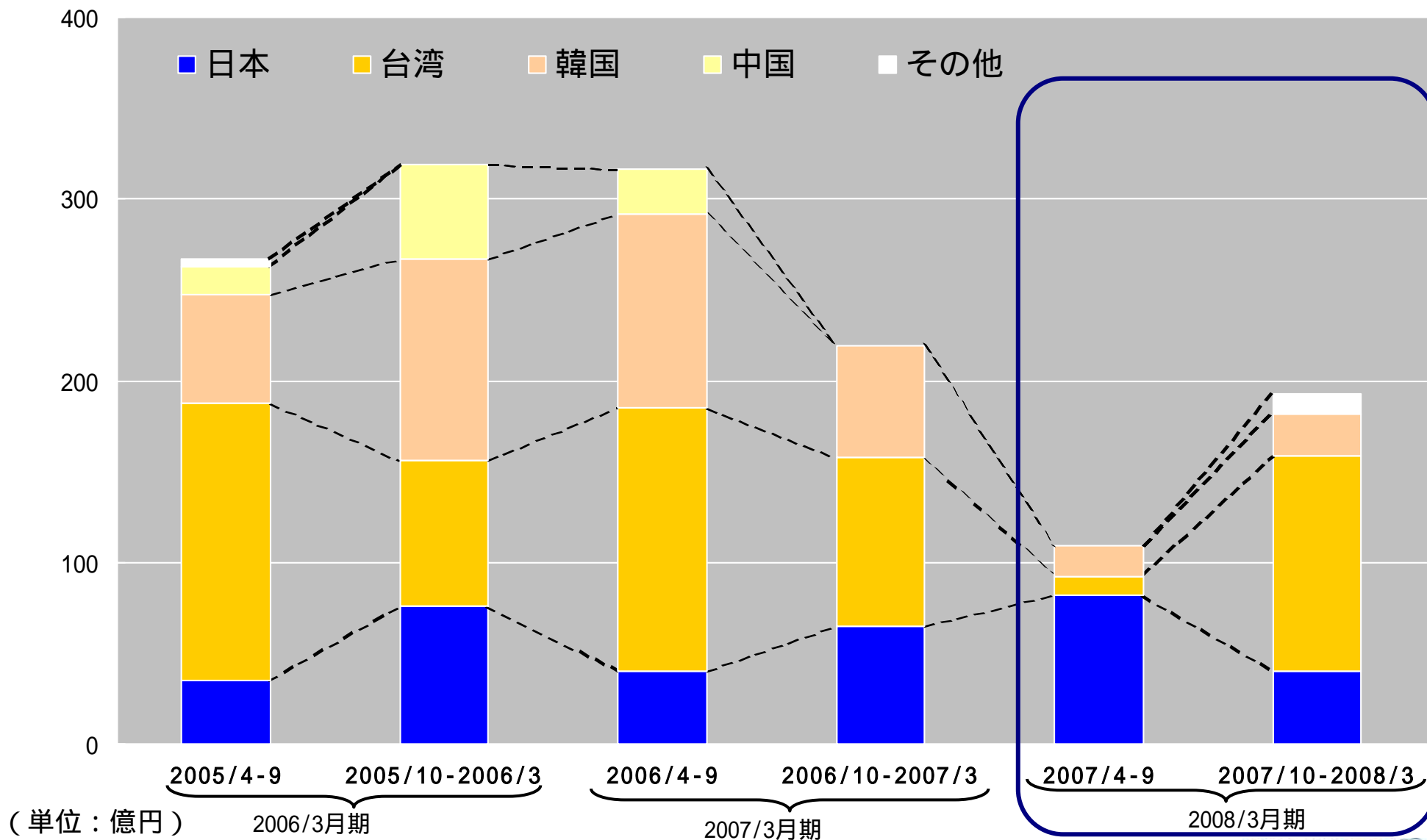
*注 その他のアジアには中近東も含む

半導体製造装置 デバイス分類別受注比率 四半期推移(単独)

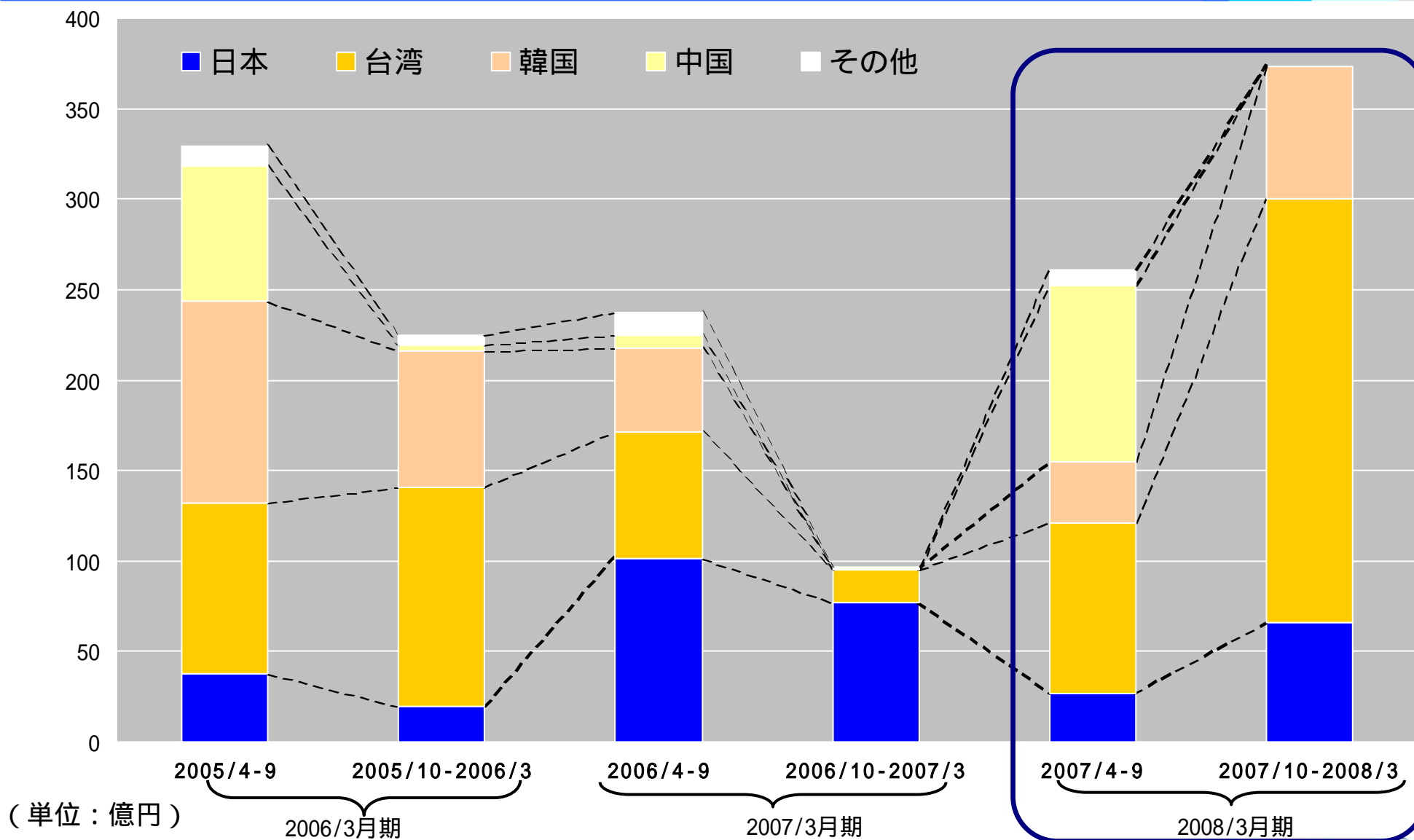
メモリーは全体に低調・ロジック/ファブリーは堅調



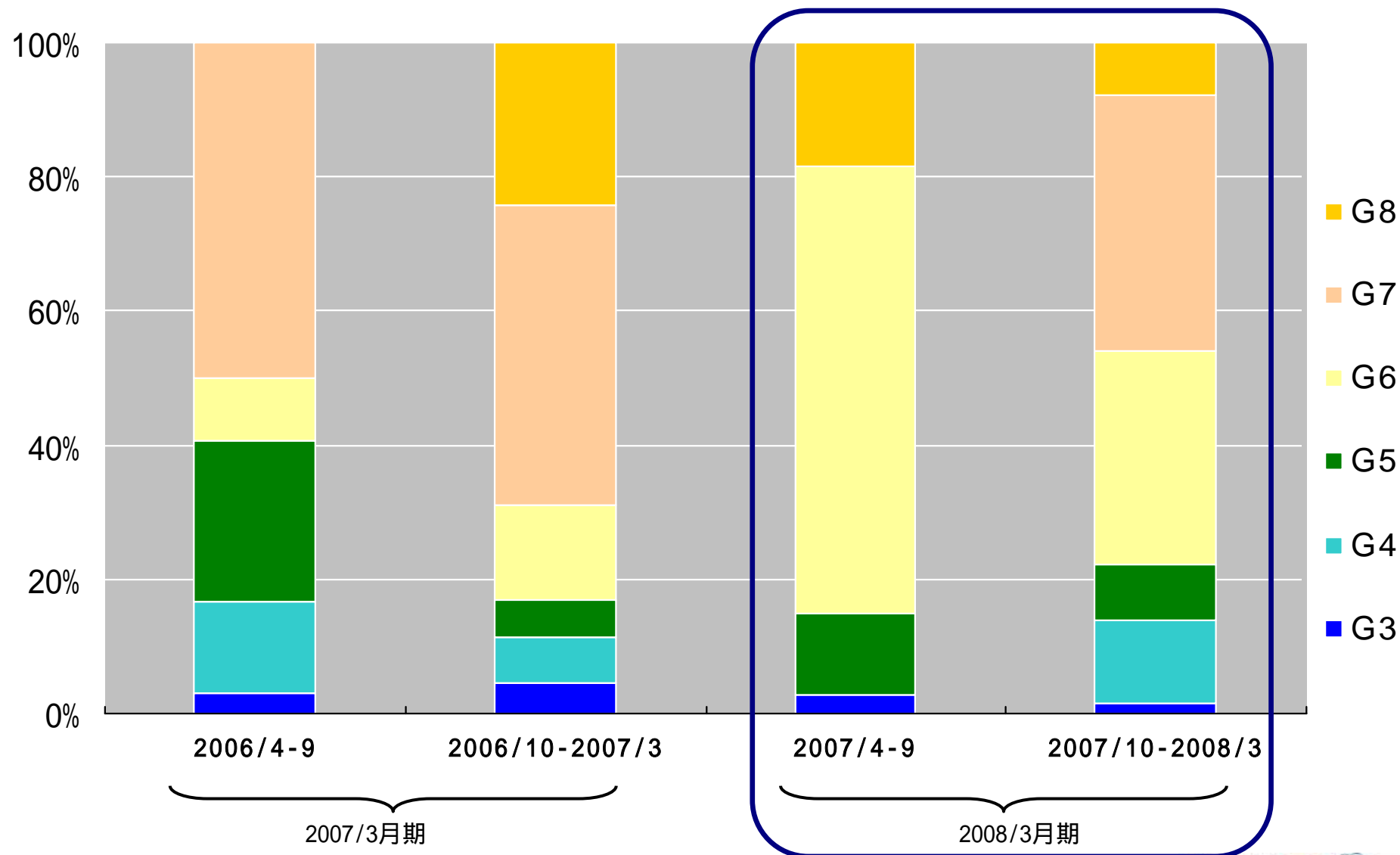
FPD製造装置 地域別半期売上高推移（単独）



FPD製造装置 地域別半期受注高推移（単独）

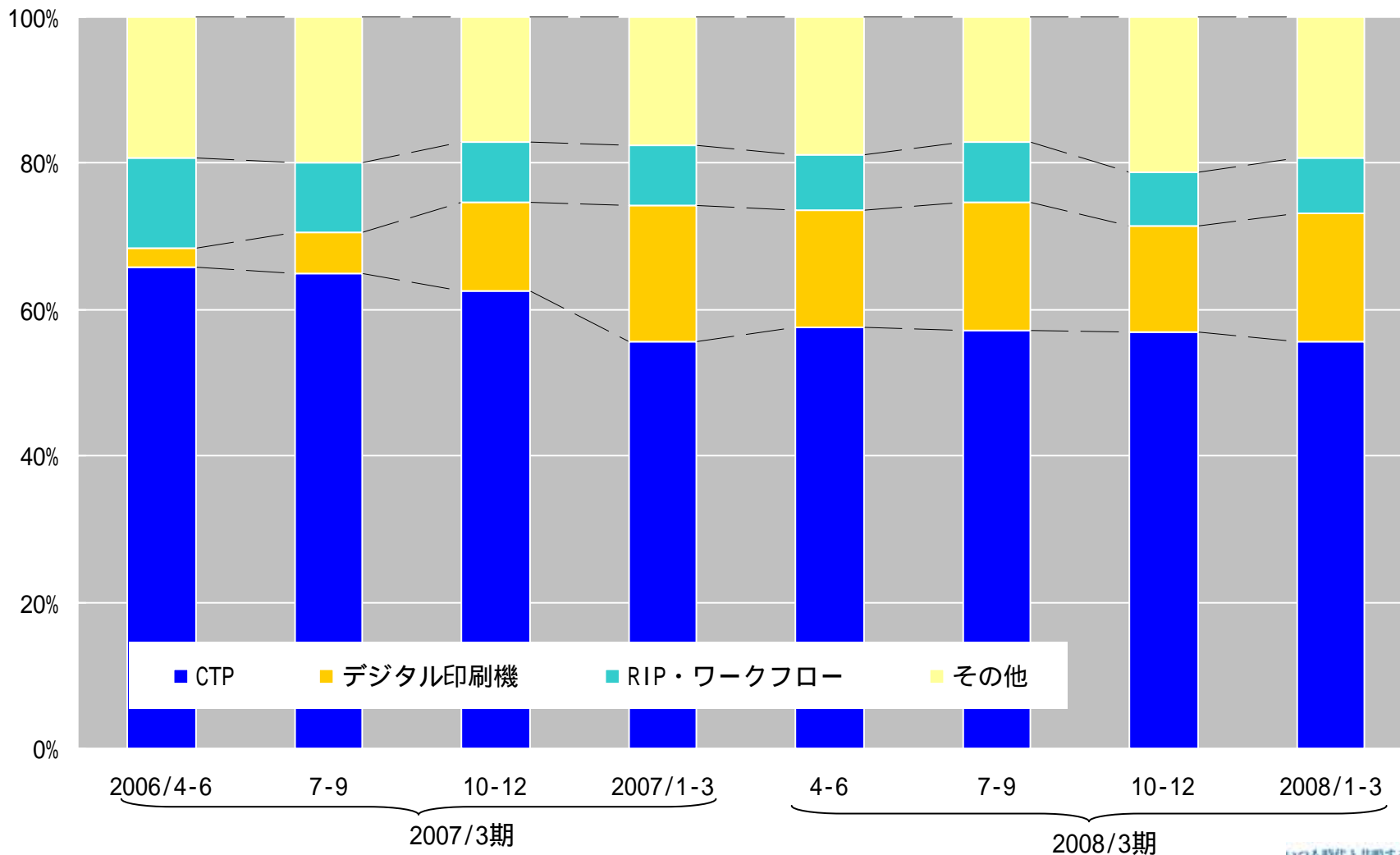


ガラス基板世代別半期売上比率推移(単独)

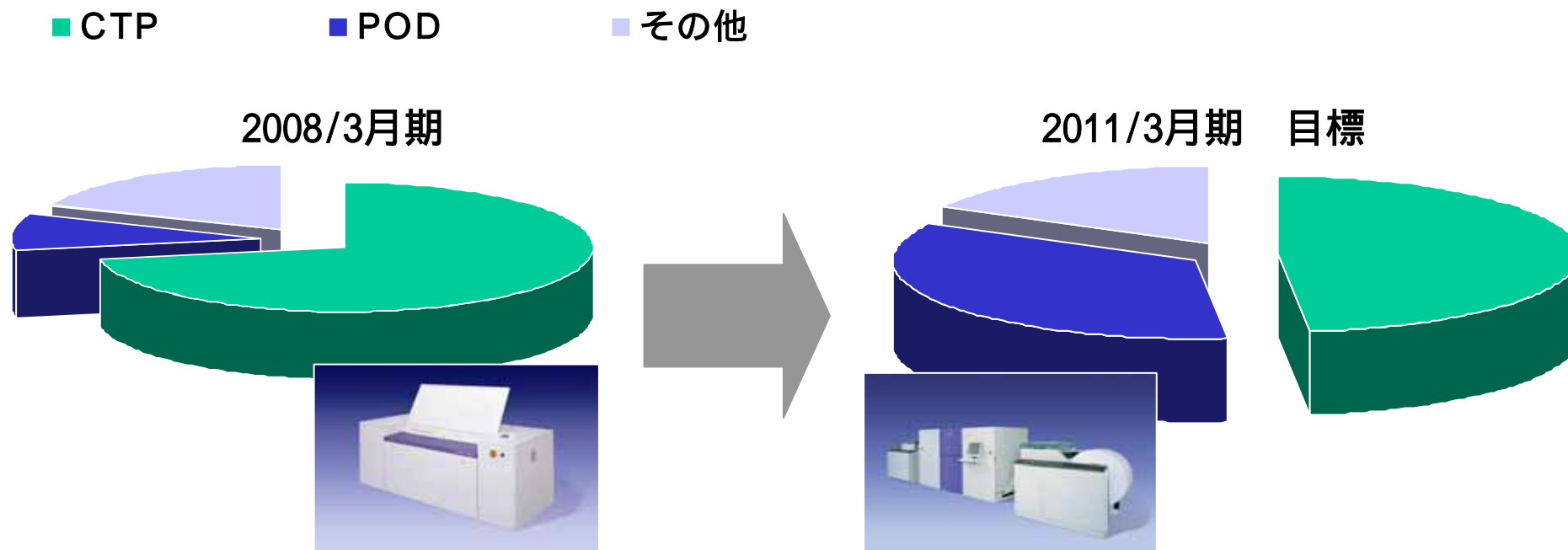


製品別売上高比率 四半期推移（単独）

デジタル印刷機が前期4Qから上昇、今後の伸びに期待



製品別売上高比率



POD製品をCTPに次ぐ第2の柱に成長させる

2009年3月期事業環境予測

半導体製造装置事業

- DRAM = > 夏から秋口にかけて1ギガビット向け設備投資再開
- NAND = > 期前半は価格下落に伴い調整局面あるものの、期後半に回復
- ロジック = > 堅調に推移
- ファンドリー = > 不透明感はあるものの、最先端向け投資増加

→ 前期比20%~25%のマイナスを予測

FPD製造装置事業

- 8世代を中心とした設備投資活発
- 受注は上期堅調に推移、下期にかけてやや減少

→ 前期比60%以上の設備投資増加を期待

画像情報処理機器事業

- CTP = > 国内市場は飽和感あり、新興国を中心に需要拡大
- インクジェット = > PODを中心に拡大基調、年率15%~20%伸長

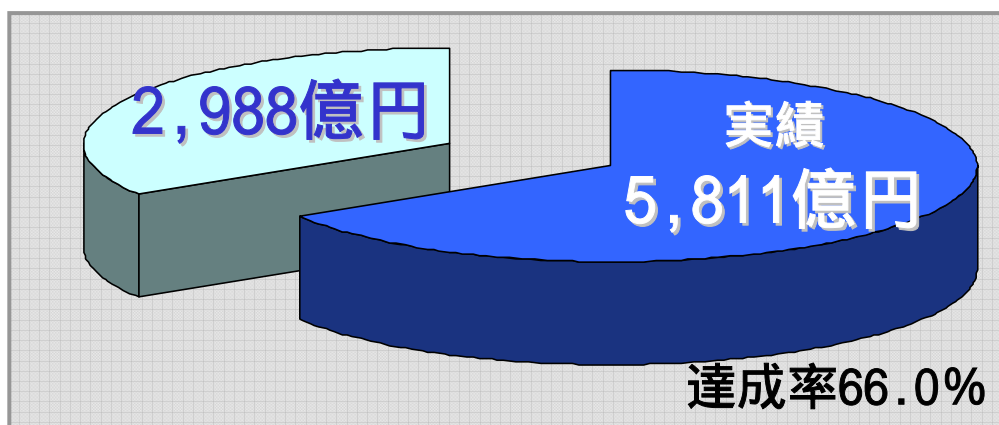
連結中期3カ年経営計画
「Vision2008」の進捗について

「Vision2008」進捗状況

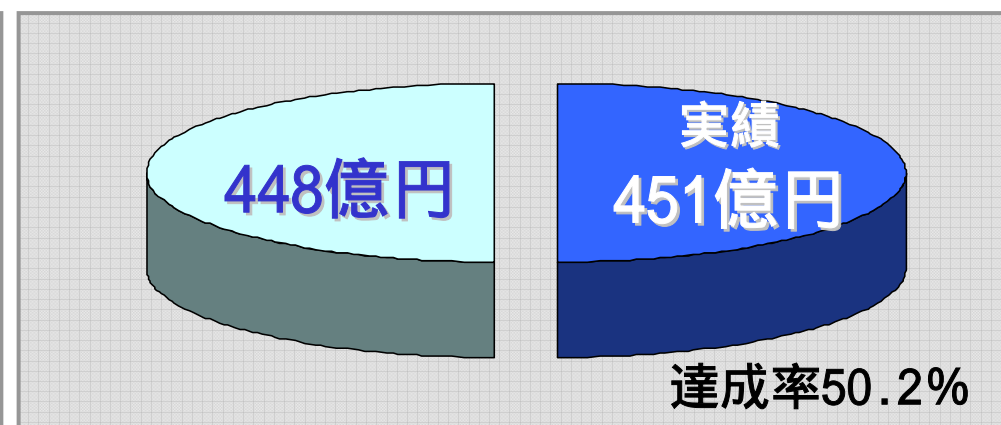
新たな成長へ、3,000億円企業への飛躍

1. 連結売上高 : 3カ年合計 8,800億円以上
2. 連結営業利益 : 営業利益率 10%以上
3カ年合計 900億円

連結売上高



連結営業利益



進捗結果

- 連結営業利益で非常に厳しい結果
- 成長に向けた投資は積極的に投下

課題

- 外部環境の変化に強い体質へ
- 収益性の改善
- バランスのとれた強固な事業ポートフォリオの構築

2009年3月期業績予想と
企業価値向上に向けた取り組み

2009年3月期連結業績予想

(億円)	2009/3期予想			2008/3期実績		
	上期予想	下期予想	通期予想	上期	下期	通期
売上高	1,230	1,500	2,730	1,452	1,345	2,798
電子工業用機器	915	1,165	2,080	1,149	993	2,143
画像情報処理機器	305	325	630	288	340	629
その他	10	10	20	14	11	25
営業利益	38	89	127	119	26	146
電子工業用機器	—	—	—	99	1	98
画像情報処理機器	—	—	—	15	24	40
その他	—	—	—	4	2	7
経常利益	12	83	95	92	16	75
当期純利益	16	48	32	54	9	45
1株当たり配当金(円)			5			10(予定)

当社の課題

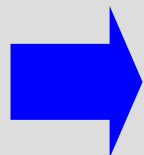
- 外部環境の変化に強い体質へ
- 利益率の改善
- 新規事業の創出

各事業セグメント

- 半導体製造装置事業 枚葉式洗浄装置の利益率アップ
- FPD製造装置事業 事業領域の拡大とコストダウン
- 画像情報処理機器事業 POD事業の拡大とCTPの売上維持
- 電子機器事業 新規事業領域への検査機投入

半導体製造装置

- ✓ プロセス技術センター稼動により
プロセス技術のさらなる差別化・製品力の強化
- ✓ 製造力の強化
 - ◆ リードタイムの大幅な短縮
 - ◆ 調達・設計・生産改革
- ✓ 枚葉式洗浄装置の収益率アップ



営業利益率10%以上を目指す



FPD製造装置

- ✓有機EL製造装置の商品化加速
(材料メーカーとの共同開発など 5月8日発表済)
- ✓直描装置などの新規製品の商品化
- ✓品質の安定化とコストダウン

画像情報処理機器

- ✓ POD装置事業で2011年までに250億円の売上を目指す
- ✓ POD対応の新機種投入（drupa2008にて発表予定）
- ✓ 材料ビジネスの比率拡大

その他電子工業用機器

- ✓ インクジェット・直描技術の展開で製品領域の拡大を目指す

Summary

- **当期の事業環境**
半導体製造装置 前期比マイナス予想、 FPD製造装置 V字回復
- **外部環境の変化に影響されにくい事業ポートフォリオの構築**
- **より高い利益水準を求め、高付加価値製品の投入とものづくり改革の推進**
- **新規事業の創出に向けた積極的な研究開発**
アライアンスやM&Aにも積極姿勢

SCREEN